

とみけいニュース

発行 第73号

発行元
富山経済会
発行日
2024年5月15日
編集
広報委員会



2024年度 会長挨拶

かねぶん青果株式会社 亀谷 慎一

このたび能登地方を震源とする大規模地震により犠牲となられた方々に心よりお悔み申し上げるとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。被災地域のみなさまの安全確保、そして一日も早い復旧・復興を衷心よりお祈り申し上げます。

昨年度は30年ぶりの高水準で積極的な賃上げが行われましたがロシアによるウクライナへの侵略による急激な物価上昇が続いた影響によって実質賃金はマイナスとなり家計の負担が増え日常生活への不安に加え、将来への不安も重なってきております。

帝国データバンクの調べによると昨年度の企業が選ぶ2023年を表す漢字は変化、変革の「変」だったそうです。

コロナ禍以降生活や働き方の変化、人手不足など世の中が急激に変化しDX等により時代の変化のスピードが速くなっていると感じている方も多いと思いますし、これは今年以降も一過性のものではなくずっと続いていくものと思っています。

変化や変革には不安も付きまとうものですが、格差社会や高齢人口の増加の中でも誰一人として取り残される事の無いよう互いに協力し共に歩み続ける必要があると思います。

そういったなか、富山経済会には企業の経営者や幹部職の方々も多く集まり定例会においても色々な分野の方々の講演会やメンバースピーチによる会員同士の情報共有や自己啓発など、大変学びの多い会となっておりますので自分自身の成長、会社の成長、地域社会への貢献など会員皆様の豊富な知識や経験などからもう一度自分を見直し、新たなことへのチャレンジや若い次世代の方達へ育成などに繋げていきたいと思っています。



〔講演会〕

演題：持続可能はまちへ～コンパクトシティで進化したまちがスマートシティで深化する～

講師：富山市長 藤井 裕久



令和6年1月1日能登半島地震において、富山市内では全壊、半壊の被害があり、準半壊については床が傾いて気持ち悪くて住めなく、元に戻すにはとても大変です。罹災証明書の申請件数が毎日増えていきます。当日は指定避難所や会社、公民館などに8,100名の方が避難されました。被害への対応の市の予算ですが、①被害者支援に係るものと②市施設等の復旧に係るものがあり、漁港への被害もひどく、医療・精神的・ボランティア等長い支援になると思っています。

富山市のコンパクトなまちづくりは、20年前に森市長が取組み近い未来の人口減少と超高齢化社会を見越しての政策です。自動車が増え公共交通の衰退、中心市街地の問題とCO2排出量の問題、市町村合併後の類似公共施設の維持管理、平均寿命と健康寿命の乖離等の課題があります。ゆえに公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくりを実現するための3本柱として、1)公共交通の活性化 2)公共交通沿線地区への居住推進 3)中心市街地の活性化を掲げました。(街の顔というのは、とても大事です)地価等が上がり、税収を政策的な経費として各地域に振り分けて行政の経営としては助かっています。

コンパクトなまちづくりは、富山駅を中心に在来線への市内電車乗り入れ等、公共交通網を放射線状にネットワークを形成しています。また、沿線地区への居住推進をしています。

富山市スマートシティ推進ビジョンを作りました。不便さを解消、効率が悪くてお金がかかる部分をデジタルの力を使って解決するのがスマートシティです。

3つのまちづくりの目標は、1.誰一人取り残されることなく便利で安心して暮らせるまち、2.地域の宝を未来へつなぐ地域づくり・人づくりのまち、3.互いの地域を尊重し支え合う一体感のある持続可能なまちにより富山市のそれぞれの良さをわかり、支えある暮らしにしたいです。また、端末のセンサーでデータを解析して役立てたり、そしてデータを使える人達が未来共創会議において学んでいます。

便利な暮らしで電動車を活用した小さな移動サービスのグリーンスローモビリティ事業や児童の朝の登校と帰りの下校の時間を分けるAIオンデマンド交通、そして子育て支援でAIが24時間子育てに関する質問に答えるサービスを導入し、さらに中山間地域スマホ買物支援事業にて地域の170名が参加され、またオンライン診察・服薬指導も大山地区にて実証実験されています。

人と人とのつながりで、電子回覧板を導入したら連絡が早く届くなど、評判は良いのですが使い方が、あまり分からなく、まだそれ程普及していません。しばらくは紙と併用していくことになります。

次に南富山駅の周辺を拠点としたまちづくり事業については、10年先の未来に向けて活力と魅力あるまちへの再編を目指し、東京の三軒茶屋みたいな街を目指しています。

最後に持続可能なまち、国・県・市が取り組むのは行政の大事な仕事ですが、民間にできる衣食住や心に繋がるサービスも重要にしたいと、さらにまち全体を輝かせ幸せにしたいです。



大井陽司

富山県議会議員

1983年(昭和58年)5月6日

富山市岩瀬生まれ

富山市立岩瀬小学校・岩瀬中学校
富山第一高等学校・日本大学理工学部

2006年(平成18年)
アイシン軽金属株式会社

2019年(令和1年)
合同会社グループホームいいね 役員

2020年(令和2年)
NPO 法人いいね設立 代表

2023年(令和5年)
富山県議会議員選挙 初当選

連絡先

NPO 法人いいね 事務所
富山市岩瀬幸町 505
電話番号:076-411-4105
Web サイト:
<https://ghine.com/>

県議会議員 大井陽司事務所
富山市岩瀬白山町 9 2
電話番号:076-471-5964
Web サイト:
<https://ooi-youji.jp/>
ユーチューブ
<https://www.youtube.com/@ooiyouji>



【富山県議会議員】大井陽司公式チャンネル

[テーマ] 富山県議会議員 大井 陽司 一議員と事業の両立一

富山経済会に入会して1年半そして、富山県議会議員として選出して頂いてから、早いもので1年が経ちました。この一年間の成長と経験は、皆様のご支援とご信頼の賜物であると心から感謝しております。県議会では4回の定例会に参加し、政策討議や条例案の審議を通じて、地域社会のさまざまな課題知事ができました。政治経験が初めてであった私にとって、非常に貴重な経験をさせて頂きました。富山県は自然が豊かで、工業、水産業、農業といった多様な産業が共存する地域です。経済を支えている多くの先輩方と共に、これらの産業をさらに発展させていくことが私の使命です。特に、若い世代の皆さんが地元で愛着を持ち、活躍できる場を増やしていくことを心がけています。現代の課題である人口減少に対しては、人工知能を活用した新しいビジネスモデルの創出や、若者が地元で留まり、家族を持ちやすい環境作りを進めていきたいと考えています。令和の時代における富山の新たな発展を目指します。

◇富山県議会委員の仕事について

富山県議会議員として、皆様の信頼に応えるべく活動しております。今年度6,127億円の富山県の予算方針を採決しました。私の取り組む、具体的なテーマとして、「富山県の経済活性化」と「カーボンニュートラル」の二つのテーマに焦点を当てています。

① 富山の魅力の国際的な推進と寿司産業の支援：
富山は寿司の高い品質で知られていますが、寿司職人と魚の供給不足が課題となっています。この問題に対処し、寿司業界をさらに強化するため、6500万円の予算を割り当て、人材育成と企業の国内外でのPR活動に力を入れています。アメリカやヨーロッパ、台湾からの観光客が富山の寿司を堪能し、日本食文化の更なる普及と収益向上を図ることを取り組みます。

② カーボンニュートラルへの取り組み：
2050年のカーボンニュートラル達成に向け、富山県の自然資源を生かした持続可能なエネルギー源の開発に注力しています。水力発電の拡張には45億円の予算を投じ、これを更新し効率化を図っています。また、ソーラーパネル設置とCO2排出量の精密な測定にも予算を配分し、環境税の導入に備えた企業の準備を支援しています。



◇障がい者就労支援のNPO 法人での仕事

県議会議員の傍ら NPO 法人を立ち上げ、障がい者の雇用改善の仕事も同時にしております。特に一般企業での障がい者の雇用は全国でもワーストの方に位置しており、法定雇用率2.5%に対し、現状は2.2%となっております。少子高齢化と超高齢化が進む中で、社会保障費の増大や労働力人口の減少は私たちの大きな課題です。富山市だけでも2万5000人の障がい者の方がいて富山市人口の約6%の割合になり、7割の人が仕事をしていないのが現状であります。

この状況を前にして、積極的な解決策を模索しています。障がい者の方々にとって仕事の機会を創出することは、社会全体の労働力不足に対する一つの有効な答えとなり得ます。

そのため、私に関わる NPO では、障がい者の方々に適した雇用を創出し、彼らが社会貢献できるよう取り組んでいます。

具体的には、富山市岩瀬の空き家を活用して障がい者の住まいを提供し、彼らが地元で安心して生活できる環境を整えています。また、法定雇用率を満たしていない企業と連携し、障がい者の方々に適した仕事を提供しています。これらの仕事は多岐にわたり、工業部品の製造、石焼き芋の販売、高齢者施設の清掃やクリーニング、さらには地元農家と連携した農作業支援など、地域に根差した活動を展開しています。

このような取り組みは、障がい者の方々が自立し、労働の喜びを感じることを促し、地域社会における彼らの存在をより価値あるものに変えています。私はこれからも障がい者支援のために、そして全ての県民が共に豊かな生活を送れる社会を実現するために、精力的に活動を続けて参ります

事業所内作業

